



博士のキャリア相談会 — トライアル開催の報告 —

電通大/東大 中村 淳* ・ 日本女子大 小館香椎子**

1996年に提唱されたポスト等1万人計画によって2万人近くにまで急増したポスト、大学院拡充政策によって増加し続ける博士課程学生のキャリアパスを考えることは、研究コミュニティーにとって重要な課題です。学部・修士課程学生の就職については、各大学でしっかりとしたサポート体制が確立されています。しかし、博士後期課程学生やポストの就職に関してはまだまだ多くの大学で組織的な取り組みが遅れており、場合によっては担当窓口が存在すらしないこともあります。指導教員やプロジェクトの主宰研究者らによる個別の対応に大きく依っているのが現状でしょう。

翻って、応用物理学会は、企業における研究者が全会員の約半分、残りの半分が大学教職員や独立行政法人研究所の研究職員らと、多様な会員を擁しています。また研究分野も多彩で、学際分野の人材交流も盛んです。こうした多様性を特徴とする応用物理学会の学術講演会は、最先端研究・技術動向の情報共有の場であることはもちろんですが、求職側であるポストあるいは博士・修士課程学生と、求人側である企業・大学・研究所のインターセクションの場としても、人材発掘・交流の重要な拠点となりうる可能性を秘めています。学術講演会の新たな可能性を探るため、第69回秋の学術講演会会期中に「博士（プレ、ポストを含む）のためのキャリア相談会」の場をトライアル設定しました。人材育成・男女共同参画委員会の特別企画です。

学生・ポストのキャリアデザイン・就職・進学の問題・相談に乗っていただく、という呼びかけに、幸いにも博士課程修了者の採用に深いご理解をいただいている企業や研究所など16機関¹⁾から出展のお申し出をいただきました。内訳は、メーカー(10)、国立大学法人(1)、独立行政法人(3)、財団法人研究所(1)、および人材育成・男女共同参画委員会社

会貢献部門のキャリアアドバイザーブース(1)という陣容で、当日ご参加いただいた相談員数は総勢50名を超えました。今回はトライアルのため、学術講演会開催期間中、9月3日(学会2日目)15:00~18:00のスポット開催として、まさに何もかも試行的に実施しました。オープンスペースも利用した開催でしたので正確な来場者数は把握できていませんが、200名を超える対象該当の方にご来場いただきました。

いわゆる求人側と求職側のマッチングをはかるためのブース「マッチングブース」や「求人・求職ブラックボード」などは海外では比較的多く見られ、また国内学会でもブース、掲示板が設置される例がちらほら見られます。しかし、単なるマッチングだけを目的とするのではなく、「キャリアデザインのための相談ブース設置と相談員の配置」という企画展示は、これまでに例がないと思われまます。特に、企業や研究所だけではなく、応用物理学会社会貢献部門のキャリアアドバイザー(シニア研究者や企業での人事・キャリアアドバイザー経験者)による若手へのメンタリングの試みは、ほかでは見られないものです。一方、出展いただいた機関からは、求人活動の一環として、学会という専門性の高い場におけるきわめて実践的な人材募集・発掘が可能であるという点で注目していただきました。

若手人材育成という視点で、今回の相談会トライアルで実際にどれほどの成果が上がったかは、それををはかる正確な尺度をもち得ませんが、来場者アンケート、出展者アンケートからは、いくつかの重要な「実態」が浮かび上がってきました。

・博士課程学生は、実際に企業などでどのような仕事、働き方が可能なのかが見えていない。

・(求人側、求職側ともに)修士課程修了と博士課程修了の「違い」についての認識がない。(すなわち博士課程進学の意味を見いだせないでいる)

・求人側は博士課程学生の実態を理解できていない(学生の意識、悩みを理解していない)。

博士課程学生のキャリアデザインに対する大学側のサポート体制の不備、ポストに対する雇用側のサポート不足が、これらの大きな原因の一つであることは間違いありません。この点で、博士課程学生(プレ、ポストを含む)と求人採用側のインターセクションのポイントを目に見える形で設定したことに、今回のトライアルの一つの意義があったと思われる。また、ブースによっては、博士課程修了者が研究開発以外の舞台上で活躍する例も提示していただき、「キャリアパスに対する新たな視点が得られた」といった感想も寄せられました。また、博士課程学生、ポストだけでなく、修士課程の学生にとっても、博士課程修了後にどのようなキャリアパスがあるのかを知る絶好の機会となったはずで、博士課程に進学するか否かの大きな指針を与えていただいたことと思います。

講演会現地実行委員長の財満鎮明先生、同副委員長の岡島茂樹先生には、会場の手配、中部地区企業・研究所へのお声かけなど、多大なご尽力を賜りました。庄司一郎先生、木村忠正先生、駒井友紀先生、事務局伊藤香代子様、苅米義弘様、飯島花子様には、実際の開催にあたって多くのご提案をいただきました。最後に、多くの学生やポストの希望・悩みに実際に耳を傾けてくださり、実践的なキャリアパスをご提示いただいた、各出展企業、研究所の相談員の皆様、応用物理学会社会貢献部門のキャリアアドバイザーの方々にご心よりお礼を申し上げます。

なお、相談会の詳しい内容は応用物理学会のホームページ、<http://www.jsap.or.jp/activities/gender/>をご覧ください。

1) 出展機関(順不同): (株)東芝, ソニー(株), 日本電信電話(株), (株)日立製作所, オリパス(株), 日本電気(株), 富士通(株), 三菱電機(株), (株)豊田中央研究所, 浜松ホトニクス(株), 名古屋大学キャリアパス支援室, (独)産業技術総合研究所, (独)科学技術振興機構(JST), (独)物質・材料研究機構, (財)ファインセラミックスセンター, 応用物理学会社会貢献部門キャリアアドバイザー

* 人材育成・男女共同参画委員会副委員長

** 同委員会委員長